

令和5年10月26日  
都立学校教育部

請願について

都立高校改革推進計画に基づく、夜間定時制課程の閉課程に関する請願について、下記のとおり報告する。

記

1 請願者

小山台高校定時制の廃校に反対する会  
都立立川高等学校芙蓉会（定時制同窓会）  
立川高校定時制の廃校に反対する会  
代表 椎野 彰夫 様

2 請願事項

小山台高校定時制・立川高校定時制の閉課程を中止し、両校の存続を決定してください。

3 請願理由

東京都教育委員会は、7年前に小山台高校定時制と立川高校定時制の閉課程（廃止）を決定した。しかしその後、両校の存続を求める声が高まり、生徒募集が続いている。誰でも、何歳でも、少人数で学べる夜間定時制高校は、都民の貴重な財産である。昼間働いている生徒や高校を中退した生徒、夜間中学の卒業生、若いときに学ぶ機会を逸した人、外国につながる生徒など、多様な学びのセーフティネットの役割を果たしている。

小山台高校定時制は「多文化共生の教育」で、立川高校定時制は多摩地域の中心に位置する普通科最大の定時制として、ともに他校で代替できない学校になっている。両校とも、交通の便が良く、創立80年を超え、地域の人々に支えられている伝統校である。

東京都教育委員会が両校の存続を求める声を受け止め、閉課程を中止し、生徒が安心して学べるよう、一刻も早く存続することを求める。

4 回答

別紙1のとおり

5 教学高第 号  
令和 5 年 1 0 月 日

小山台高校定時制の廃校に反対する会  
都立立川高等学校芙蓉会（定時制同窓会）  
立川高校定時制の廃校に反対する会

代表 椎野彰夫 様

東京都教育委員会

請 願 に つ い て （ 回 答 ）

令和 5 年 9 月 8 日付けで提出された請願について、下記のとおり回答します。

記

東京都教育委員会は、平成 3 1 年 2 月 1 4 日に開催された平成 3 1 年東京都教育委員会第 3 回定例会において、都立高校改革推進計画・新実施計画（第二次）を策定し、この中で平成 2 8 年 2 月の都立高校改革推進計画・新実施計画と同様に、小山台高校及び立川高校の定時制課程を閉課程することを決定しています。

新実施計画策定後、夜間定時制課程の入学者選抜の状況は、平成 2 8 年度から令和 5 年度までにかけて募集人員は 8 1 0 人減少していますが、第一次募集の応募倍率については、平成 2 8 年度の 0. 3 8 倍から、令和 5 年度の 0. 2 6 倍へと低下しています。第一次募集の応募者数についても、平成 2 8 年度の 9 1 2 人から、令和 5 年度は 4 2 9 人と減少しており、さらに、第二次募集における応募者が平成 3 0 年度以降、大幅に減少し、入学者数の減少が顕著となっています。

このため、東京都教育委員会は、都立高校改革推進計画・新実施計画（第二次）の着実な実施により、チャレンジスクールや昼夜間定時制高校の規模拡大等を行い、その進捗や夜間定時制高校の応募倍率の推移などの状況を考慮しながら、小山台高校及び立川高校の夜間定時制課程を閉課程し、都立高校定時制課程の改善・充実を進めていきます。

小山台高校定時制課程及び立川高校定時制課程の閉課程後、夜間定時制課程を希望する生徒については、チャレンジスクールや周辺の夜間定時制課程等において受け入れていきます。

#### 【閉課程する理由】

夜間定時制課程を当初から希望する生徒の入学者選抜応募倍率は、平成 2 3 年度には 0. 6 3 倍でしたが、平成 2 7 年度には 0. 4 2 倍に低下しています。

また、夜間定時制課程は、セーフティネットの機能を果たしていますが、募集人員

に対する在籍生徒の割合は、平成23年度以降年々低下し、平成27年度では定員の68.6%にとどまっています。その上、夜間定時制課程には、昼間に学校に通うことができない勤労青少年の学びの場として、昭和40年度には夜間定時制課程に進学した生徒のうち勤労青少年は88.3%でしたが、平成13年度の夜間定時制課程に在籍する全生徒のうち7.0%に、平成27年度では3.3%にまで低下しています。

その一方で、夜間定時制課程には、学習習慣や生活習慣等に課題がある生徒や、小・中学校時代に不登校を経験した生徒、外国人の生徒など、多様な生徒が在籍するようになってきました。こうした生徒の中には、チャレンジスクールや昼夜間定時制高校を希望していたものの、合格できずに夜間定時制高校に入学した生徒も多くいる状況です。このため、東京都教育委員会では、このような生徒や保護者のニーズに対応すべく、チャレンジスクールや昼夜間定時制高校を設置し、規模拡大に取り組んできましたが、平成27年度入学者選抜においても、チャレンジスクールの応募倍率は1.66倍、昼夜間定時制高校が1.77倍であり、入学希望に十分に答えられていない状況があります。

そこで、「都立高校改革推進計画・新実施計画」及び「都立高校改革推進計画・新実施計画（第二次）」では、昼夜間定時制高校とチャレンジスクールの夜間部の規模拡大やチャレンジスクールの新設を行い、その進捗や夜間定時制課程の応募倍率の推移などの状況を考慮しながら、一部の夜間定時制課程を閉課程していくこととしています。また、全ての定時制高校において、スクールカウンセラーの配置拡大や勤務日数の拡充など教育相談体制の強化等を行い、定時制教育の充実を図ることとしています。

なお、現在の状況といたしましては、令和5年度における募集人員に対する在籍生徒の割合は35.7%、夜間定時制課程に在籍する勤労青少年は全生徒のうち3.0%となっています。

また、小山台高校定時制課程の入学者の状況は、平成27年度26人に対し令和5年度は10人となっており、立川高校定時制課程の入学者の状況は、平成27年度90人に対し令和5年度は37人となっています。

# 小山台高校定時制と立川高校定時制の 閉課程を中止し、両校の存続を求める請願署名

東京都教育委員会教育長 浜 佳葉子 様

## ■ 請願項目 ■

- 1・小山台高校定時制・立川高校定時制の閉課程を中止し、両校の存続を決定してください

2023年9月8日

小山台高校定時制の廃校に反対する会  
都立立川高等学校芙蓉会(定時制同窓会)  
立川高校定時制の廃校に反対する会

代表 椎野彰夫

都立立川高等学校芙蓉会(定時制同窓会) 副会長

連絡先

第一次分 11,626 筆

(紙の署名) 11,115 筆

(ネット署名) 511 筆



# 小山台高校定時制と立川高校定時制の 閉課程を中止し、両校の存続を求める請願署名

東京都教育委員会教育長 浜 佳葉子 様

## ■ 請願項目 ■

1・ 小山台高校定時制・立川高校定時制の閉課程を中止し、両校の存続を決定してください

2023年10月2日

小山台高校定時制の廃校に反対する会  
都立立川高等学校芙蓉会(定時制同窓会)  
立川高校定時制の廃校に反対する会

代表 椎野彰夫

都立立川高等学校芙蓉会(定時制同窓会) 副会長

連絡先

第二次分

442 筆

(紙の署名) 406 筆

(ネット署名) 36 筆

累計 12,068 筆



教育長 浜 佳代子様

都立小山台高校定時制、都立立川高校定時制の閉課程を中止し、両校の存続を一  
刻も早く決定してください

2023年9月8日

小山台高校定時制の廃校に反対する会  
東京都立立川高等学校芙蓉会（定時制同窓会）  
立川高校定時制の廃校に反対する会

本日、都立小山台高校定時制、都立立川高校定時制の閉課程を中止し、両校の存続を求める請願署名を 11,626 筆提出しました。私たちは、貴教育委員会が 2016 年 2 月に 4 校（小山台高校、雪谷高校、江北高校、立川高校）の定時制を閉課程としたことに対して、毎年、その決定の見直しを求める請願署名を提出してきました。夜間定時制の存続を求める都民の声は広がり続けていますが、残念ながら雪谷高校定時制と江北高校定時制の生徒募集は停止となり、廃校になりました。

現在、小山台高校定時制と立川高校定時制の新入生の生徒募集は続いています。今年、小山台は 10 人、立川は 39 人でスタートしました。小山台は外国につながる生徒が多く学び、多文化共生教育を長く取り組んでいます。立川は夜間定時制の普通科では最大規模の生徒数です。今年の 1 年生は昨年より 15 人多く在籍しています。夜間定時制で学ぶ生徒が減少していると言われていますが、今年春の入試（二次募集）では、普通科と専門学科の夜間定時制課程の応募者数は昨年より 45 人も増えています。小山台と立川の定時制は 7 年前に閉課程が決まったにもかかわらず、毎年、相当数の応募者がいることは、まだまだ夜間定時制を必要とする生徒がいることを示すものに他なりません。

昨年 10 月 20 日、私たちの請願が定例教育委員会において審議されました。その際、北村友人教育委員は希望する生徒が減少しているなどの現状では「非常に苦しい思いをしながら学校を閉じなければいけない」としながらも、「請願について、これは以前から定時制の、特に同窓会の方々を中心に、自分たちの母校を続けてほしいということで、非常にそのお気持ちは重く受け止め」と述べられました。

さらに北村委員は、私たちの請願が外国につながる生徒が増えていると指摘していることに対して、「東京大学の先生が、外国にルーツを持つ子供たちの都立高校における支援の状況というのを調査して、都庁の都教委の方にも少し調査の結果を共有したということを知っていますが、その中でやはり定時制に関して、学業不振等で辞めてしまう生徒さんがどうしても少し多い、外国にルーツを持つお子さん、生徒さんの中に退学してしまう子が多くて、そこに一つ、学業不振の理由に、日本語支援がもう少し必要ではないかという、少し根本的な問題もある」と発言されました（引用は議事録から）。

私たちは、ここで紹介された東京大学の額賀美紗子教授を研究代表者とする「外国につながる生

徒の学習と進路状況に関する調査報告書『都立高校アンケート調査の分析結果』を拝読し、その調査結果が報告された12月10日の日本財団主催の「多文化共生社会の構築フォーラム」も拝聴しました。

この調査報告書は興味深い内容で、私たちも大変勉強になりました。全都立高校にアンケートを送付し、調査協力を行った都教委に対して敬意を表するものです。調査報告書では「外国につながる生徒」について、①外国籍生徒および②外国出身の親をもつ日本国籍生徒（＝外国につながる日本国籍生徒）を指す言葉として使用し、これらの生徒には充実した日本語指導が必要であるとしています。とりわけ「定時制高校では日本語指導が必要な生徒の在籍率が高く、学習意欲は高いものの経済的に厳しく保護者の教育関与が少ない生徒が多い傾向がみられた」と分析しています。調査報告書の最後には、東京都に対して外国につながる生徒の教育機会の保障と居場所づくりを期待するという「提言」もおこなっています。

ご存じのように小山台、立川の定時制も外国につながる生徒が多く学んでいます。全国的には7人に1人の子どもが貧困状況にあり、不登校生徒やヤングケアラーが増大していることが深刻になっています。コロナが明け、再び海外から働く人たちがやってきました。こうした状況の変化によって、夜間中学や夜間定時制高校の役割はますます大きくなっています。夜間中学の拡充が進められている中で、夜間中学の卒業生の進路先でもある夜間定時制を減らしていくのは道理がありません。また、閉課程を決定した2016年当時とは社会状況が大きく変わっています。

今年の2月11日、TOKYO FMで小山台と立川の夜間定時制のことが紹介されました。その中で、小山台高校定時制の在校生が「外国人が多く、入学前はなんか嫌だなと思っていたけど、実際喋っていると楽しい。…外国の人とか不登校だったとかいろんな人がいるから、そういう人たちが入りたいって思っている学校って大事なのかって思います」と話しました。

8月26日のNHK朝のニュースでは、外国出身など日本語を母語としない子どもたちが急増する中で、日本語での学びを集中的に取り組み、昨年中退者ゼロを実現した都立定時制高校が紹介されました。9月3日、私たちが主催した「もっと知りたい！夜間定時制ってどんなところ？」に参加した立川高校定時制の卒業生は「全日制を辞めて定時制に入り直したけど、最初はやる気がなかった。でも、友達もでき、先生たちの支援もあって4年間やりきれた。それが自信になって進学した専門学校も頑張れた。私に力をくれたこの定時制をつぶさないで」と訴えました。

教育委員会、教育庁にお願いします。夜間定時制を必要とする生徒の学びの場を奪わないでください。そうした学びの場があることを積極的に広報活動してください。戦後長く、都立の夜間定時制は貴重な学びの場所となってきました。現在もその役割を失っていません。小池都知事も夜間定時制の役割について、次のように述べています。「夜間の定時制高校につきましては、勤労青少年だけではありません。今日では、不登校を経験した生徒、そして外国人の生徒などの学びの場となっている。そして、きめ細かな指導を行うなど、社会人としての自立を促す、その上で重要な役割を果たしていると認識をいたしております」（2021年3月9日都議会）。

その通りだと私たちも思います。いったん決定したことを見直すのは大変かと思いますが、閉課程を中止し、夜間定時制の存続とその教育の充実のために貴教育委員会が英断してくださることを切に望みます。

教育長 浜 佳 葉 子 様

2023年9月8日

小山台高校定時制の廃校に反対する会  
連絡先

## 小山台高校定時制課程の存続についてのお願い

私たちは都立小山台高校定時制課程の存続を求め、今年もまた新たな署名11,626筆を東京都教育委員会に提出しました。

教育委員のみなさまには毎年このような形で訴えてきましたので、繰り返しになる方もいらっしゃると思いますが、今年もお読みいただき、私たちの思いを受け止めていただければ幸いです。

2021年3月9日の都議会予算特別委員会で、小池都知事は「夜間の定時制高校につきましては、勤労青少年だけではありません。お話ありましたように、今日では、不登校を経験した生徒、そして外国人の生徒などの学びの場となっている、そして、きめ細かな指導を行うなど、社会人としての自立を促す、その上で重要な役割を果たしていると認識をいたしております。」と答弁しました。その外国人の生徒などの最も大事な学びの場になっているのが小山台定時制です。

私たちが小山台高校定時制の存続を求めている理由は以下の2点です。

① 小山台定時制の多文化共生の教育を希望する生徒の行き先がなくなってしまいます。多文化共生の教育活動は小山台高校定時制ならではのもので、歴史と実績を積み重ねてきました。外国籍あるいは外国につながる生徒が半数以上在籍し、学校そのものが多文化共生の場になっています。

2021年2月12日の都議会文教委員会で、とや議員が「小山台は現在、1年生は半数以上が外国籍、あるいは外国につながる生徒で、多文化共生教育に力を入れている。カリキュラムを教えて欲しい」と質問したことについて、都教委は「多様な文化、国籍をもつ生徒が共に生きることができるよう、人権感覚を高め、互いに尊重しあう心をもつことを目標にした教育活動を行っている。学校設定科目「市民」「多文化理解」を設置し、日本人と外国人が互いに尊重しあえる学習を行っている」と答弁しました。今も変わりません。

しかし、都教委は、「小山台の周辺でおなじように多文化共生教育を行っている定時制はあるか」という質問に対しては、「例えば、都立六本木高校では、チャレンジスクールの特性を生かし、日本語教育や多文化への理解を深める学習を行うための選択科目として、国際理解、環境と共生、実用国語などを設置しております。また、都立六郷工科高校定時制課程では、日本語指導が必要な生徒が早期に授業内容を理解できるようにするための選択科目として、ベーシック英数国を設置するとともに、放課後日本語教室を実施しております」と答弁しました。

この答弁は実際の教育活動から見て正しくありません。六本木や六郷工科は小山台と同じよう



な「多文化共生教育」を行っているわけではありません。

資料として、小山台定時制、六本木、六郷工科定時制、大森定時制の今年度の教育課程表を同封しましたのでご覧ください。

小山台は学校設定の必修教科「市民」で、「共に生きる」「社会参加Ⅰ」「社会参加Ⅱ」という科目を4年間かけてすべての生徒が学習します。さらに教科「多文化理解」で「はじめての韓国語」「はじめての中国語」「はじめてのフランス語」から一つを選択して学ぶようになっています。六本木は普通教科と総合教科で合計110ある自由選択科目の中に、「中国語」「ハングル」「いのちと性」「国際理解」「環境と共生」があるだけです。六郷工科は英数国の基礎的な講座「ベーシック」を設けているだけです。小山台の「市民」に相当するカリキュラムを持っている学校は他にないのです。都立唯一といってよいようなカリキュラムを持っている学校をなぜ廃止するのか、私たちはこのことを一番問題にしています。

小山台に相当するカリキュラムを持った学校がないとすると、小山台定時制の廃止は「代替りの選択肢として同等以上のことができる部分が近くで求められるのかどうかというのは、代替措置として大事などころではないかと思うのですが、それはもう万全であると思ってよろしいのでしょうか」という宮崎委員の発言（2017年10月12日教育委員会）に反するのではないのでしょうか。

② 「交通が便利でチャレンジスクールや昼夜間定時制高校に通いやすいから（廃止する）」という理由も理解できません。

他の対象校と違って小山台の場合、近くに新たなチャレンジ校をつくるわけではありません。既にある六本木高や一橋高に通いやすいというだけです。武蔵小山駅から六本木高校の最寄り駅まで電車一本で行けるのは確かですが、例えば大崎高校も一橋高校まで電車一本で行けるし、時間的にも同じようなものです。特に小山台高を廃止する理由になりません。

そもそも、交通至便な学校を「他の学校に通いやすい」という理由で廃止する意味がわかりません。小山台の生徒が武蔵小山駅近くに住んでいるわけではありません。いろいろな地域から電車の便などが良い小山台に通ってくるのです。武蔵小山から六本木や一橋に通いやすいからといって、小山台に通ってくる生徒がこれらの学校に通いやすいとは限りません。

小池都知事は先述の都議会で、「教育委員会が、これまでも丁寧に、その件につきましては説明をしてきたと、このように聞いております」と答弁しましたが、これは事実と違います。都教委は廃止の理由について、「勤労青少年が少ない」「チャレンジ校などへの希望者が多い」「近隣の学校で代替できる」…など定時制をめぐる状況の一般論を述べただけです。これらは夜間定時制高校すべてに該当します。その中で「なぜ小山台定時制なのか、なぜ立川定時制なのか」という理由が聞きたいのです。しかしこの質問には未だに回答がありません。どこが丁寧な説明なのでしょう。このまま募集停止にするのはあまりにも理不尽です。

私たちは、今年も10月に開催される教育委員会において、小山台高校定時制の新1年生の募集停止が予告されることを危惧しています。ぜひ、私たちの思いを聞いていただければと思い、今年もお手紙を差し上げました。よろしくお願いいたします。

## 都立立川高校定時制課程の存続についてのお願い

異常気象と新型コロナ再燃のもと、教育委員の皆様におかれましては、日頃より学校教育発展のために率先してご尽力いただき、敬意を表するものです。

私たち立川高校芙蓉会（定時制同窓会）は、母校の持続的な発展のために影ながら尽力してまいりました。この間、芙蓉会として生徒募集に協力すべく、独自の学校案内パンフレットを作成し、立川市をはじめ八王子市、青梅市、国分寺市など周辺の18市町125の中学校に対して訪問活動をすすめ、新型コロナ蔓延後は郵送にてご案内を行うこともありました。生徒の進学先を決めかねていた、進路担当の先生は「働きながらも学べる場がありましたね」などと訪問を喜んでいただきました。

また、毎年取り組んでいる定時制高校の存続を求める請願署名は、今回も1万筆を超える方々の願いを集約し、提出いたしました（9月8日現在）。署名に取り組んだ会員の多くが「立定の卒業生であることを誇りに署名を呼び掛けました」「先輩・後輩、そして現役へとリレーしてきた歴史と伝統の立定を残したい」「格差と貧困社会。学びのセーフティネットを無くさないで…」などの熱い思いで署名を広げています。

私たちは、以下のような理由で立川高校定時制の存続を願っています。

(1) 現在、生徒数は160人が在籍しています。減ったとはいえ都内の夜間定時制普通科では最大規模の学校で、多摩地域随一の人気校です。今年度も昨年を上回る39人が入学しました。最近では、不登校経験者や全日制からの編入組、外国に繋がる生徒が多いとのこと。在校生の多くがアルバイト等に取りくんでおり、卒業時には「新入社員教育の手間が省ける」ことから、即戦力を求める大企業からの求人が増えているそうです。

(2) 立川高校定時制が廃止されれば、立川市、八王子市、日野市では夜間定時制はゼロになります。現在、母校には八王子市から通ってくる生徒が最も多く、次いで立川市、武蔵村山市、東大和市、日野市などにつづきます。多くの生徒が運動部（バスケット、バドミントン、卓球など）や、文化部（軽音楽、演劇、イラストなど）に参加しており、午後9時55分までのクラブ活動に励んでおります。したがって、交通至便で立川駅から7～8分で行ける学校を廃止して、遠くにある学校やチャレンジスクールに行けばいいという考え方は、いかにも行政マンらしい施策で、勤労青少年らの希望を無視するものです。

(3) 立川高校定時制は創立87年を迎え、歴史と伝統を積み重ねてきました。8年前に都教委による閉課程（廃止）計画に接し、在校生やPTA、卒業生、教員OBなどから存続を願う切実な声が寄せられました。こうしたことから芙蓉会（同窓会）として「定時制高校4校の存続を求める決議」を上げて、運動に取り組んできました。また、立定が「地域の幾世代の方たちからも愛され、信頼される学校づくり」をすすめており、存続運動への共感も広がって、定時制を残して欲しいというのが地元市民の世論になっています。

この間の教育委員会において、各委員の皆様から「（同窓会の方々の、母校を続けてほしい…）そのお気持ちは重く受け止めている」「母校への思いはひとしお。一人も取りこぼさないようにしてほしい」「チャレンジスクールや近隣の定時制で受け入れるということだが、通学困難が出るかも知れない」等の発言が出され感激しております。今年も10月に開催される教育委員会において、立川高校定時制の新1年生の募集停止が予告されることのないよう切に願いつつ、お手紙を差し上げる次第です。宜しく願いいたします。

2023年9月8日

東京都立立川高等学校芙蓉会（定時制同窓会）

（連絡先）